

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500704		
法人名	NPO法人ヒューマンネット 大地の翼		
事業所名	グループホーム うぐいす		
所在地	宮若市本城1104番地		
自己評価作成日	平成28年11月21日	評価結果確定日	平成28年12月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成28年12月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所10年を機に運営理念を見直しました。「地域の人と交流しながら、利用者が安心して暮らせるグループホームをめざします」と改め、気持ちを新たにしました。ボランティアを多く受け入れ、カラオケ、踊り、傾聴、行事のお手伝いなど外部の方との触れ合いを大切にしています。毎日のラジオ体操の後に深呼吸を取り入れ、身体全体の運動をして体力アップを図っています。利用者にとって外出が何よりの楽しみの為、年12～13回初詣、花見、紅葉狩り、さげもん見学等で外出しています。毎月の家族会では家族だけで話し合う時間を持って頂き、忌憚のない意見を頂いています。運営推進会議では利用者の状況、事故、ヒヤリハット、行事等を報告し、率直な意見を頂いています。ミーティングでは家族会や運営推進委員の意見を踏まえ、職員の気づきに繋がっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

見直した理念を実践するために、「同一目線、コールの駆けつけ、傾聴」を表示し、夜勤時の同時コールに対応できない入居者に安心して待っていただけるように声をかけをしたり、「こまったことがあったら紙に書いて下さい」と記載した意見箱を居室前の廊下に設置している。ケアプランカウント表を活用してチームケアを実践しているが、食べたい物を食べたい時に食べれる形状で提供して体重が増えて落ち着いたり、拘束のない生活で少しずつ落ち着きを取り戻したり、趣味の習字を取り入れたケアで本来の姿を取り戻す入居者の方々に、職員は驚きと喜びを感じている。季節ごとのお花見等の外出の機会やカラオケ指導に多くのボランティアが貢献し、運営推進会議には家族、地域の自治会長や民生委員、消防署や警察官の参加があり、盆踊りや餅つき大会が継続されている。今後も、家族会からの要望を運営に反映しながら、理念にある地域の人と交流しながら安心して暮らせるホームづくりが期待できる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム うぐいす**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所10年を機に運営理念を見直し、より具体的な内容(同一目線・コールの駆けつけ、傾聴)を取り入れた。新たな運営理念を掲示、毎朝の朝礼で唱和し、実践に繋げる様努力している。	理念を見直し、より具体的に気をつける視点を表示している。夜勤時に、同時にコールが鳴ることもあり、緊急性の高い入居者から対応するが、他の入居者へ声かけをして安心していただく等、理念の具現化に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組合に加入し、回覧板を通して、地域の情報を得て、出来るだけ行事には参加している。餅つき大会には地域の小学生や家族も来られている。今年はさげもん(地域の民生委員宅)を見に行った。	隣組に加入し、ホーム前で披露される盆踊りの輪に加わって、入居者も踊っている。恒例の餅つき大会も交流の場となっている。調査日にはカラオケのボランティアの指導で、コミュニケーションがうまくとれない入居者も大きな声で歌う姿が見られた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域主催の行事、グループホームの行事の際に認知症の方に接して頂き、理解を深めて頂いている。運営推進会議では認知症にの方の対応の仕方等伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、ヒヤリハットや研修報告等、情報提供している。会議録は整備し、欠席した家族には会議の内容を郵送している。月1回のミーティングで話し合っている。	毎回、全家族に会議の案内をし、自治会長や民生委員、消防署や警察官の参加があり、高齢者の注意点等の情報が提供されている。運営推進会議の開催日に合わせて、避難訓練や家族会を実施する等、参加メンバーの広がりに取り組んでいる。	地域からの参加も多いことからホームへの理解を深めてもらい、さらによき協力者を増やしていけることを期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には参加して頂き、情報交換を行っている。市役所からは毎月空室の問い合わせがあったり、些細な事でも相談し、アドバイスを頂いている。	地域包括支援センターから空き情報や入居の問い合わせがあり、日頃から相談や協力をお願いしている。市職員が地域同業者協議会のGHみやわか研修会に参加されることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会の報告を通し、理解を深め、話し合っている。利用者様の変化していく状態を確認しながら、拘束しないケアに取り組んでいる。事故防止のため、玄関、勝手口は施錠している。	入浴介助等で人手が足りない時間帯の施錠は、家族に文書で了解を得ている。退院して暴言が激しかった入居者が、拘束のない生活で少しずつ落ち着きを取り戻した事例は、職員全員に身体拘束をしないケアの重要性を示す機会になった。今月、GHみやわか研修会で身体拘束を担当している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会やミーティングで話し合い、虐待防止法について学び、グループホームにおけるご家族との会話や職員のケア、職員間の会話などに注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者様はおられないが、ミーティングで研修会に出席した職員より報告してもらって、理解、共有している。玄関にはパンフレットを置き、新聞等を通して知識を得ている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している入居者はいない。福岡県グループホーム協議会の研修会で学び、伝達講習を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明は勿論だが、内容の変更の度に文書で説明し、理解して頂いている。リスクのあることは家族会で再度説明し、理解・納得して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月開催している家族会では家族だけで話し合う機会を設け、率直な意見を頂いている。利用者様にも管理者が個別に話し、要望や意見を聞いている。	家族会からの要望で、職員のエプロンに名札を縫い付けて、誰でも名前がわかるようにしている。「消灯時間を延ばしてほしい」、「外出が楽しみなので、連れ出してほしい」等の意見が寄せられ、反映されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングでは理事長、管理者は毎回出席し、職員は出来るだけ参加し、意見交換している。毎日の申し送りでも提案は管理者に報告しケアに反映するようにしている。	毎月のミーティングでは、全入居者のケア内容等を検討し、情報が共有されている。職員からの提案でセンサーマットを設置して、ベッドからの転落を防ぐ入居者がいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者様が高齢のため、入退院を繰り返したり、建物等も年々老朽化するため、設備費がかかり、給料まではひびかないのが現状である。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	定年制度はなく、健康であれば、性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。シフトを組む時には希望休を尋ね、趣味、病院受診、家族との触れ合い等に時間を活用してもらっている。	現時点では、管理者や職員の紹介で勤務する職員がほとんどである。定年制は無く、40代から70代までの職員が働いている。職員の高齢化にも配慮しながら、外部研修やGHみやわか研修会に交代で参加するよう配慮されている。調査日、公休の職員が孫とともにホームを訪れ、入居者と赤ちゃんが自然に触れ合う場面が見られた。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングや利用者の立場に立ったケアを確認し、毎朝の朝礼でも同一目線・コールの対応・傾聴を目標に利用者に沿うケアの意識統一している。	行政の主催する研修会に参加し、伝達講習をしたり、ミーティングでは理事長から入居者の人権に配慮したケアを啓発する話がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、GHみやわか等の研修に参加した内容をミーティングで話し合い、ケアの向上に努めている。新人職員は主任が力量に合わせた指導をしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GHみやわかには出来るだけ参加している。同業者との交流は視野が広がる意味でも大変勉強になり、サービスの質の向上に役立っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は本人、家族、管理者等との話し合う機会を設けている。何気ない会話の中に本人の気持ちが出ると思うので、管理者は出来るだけ自室にて傾聴するようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来られているときの様子や言葉には注意を払い、家族の要望、意見や悩みを聞き、信頼関係が築けるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の施設の情報も取り入れたり、今まで利用していたサービスからも情報を得て、ご本人にとってより良いサービス利用が出来る様に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームに入られるまでの歴史を踏まえ、その中からヒントを得るようにしている。洗濯物たたみやカレンダー捲りを手伝ってもらったり、カラオケを一緒に歌うなど共に過ごしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族会の出席、行事(周年、夏祭り、餅つき大会)で本人は勿論、家族、職員間の絆を深めご本人が安心して暮らせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出は自由にして頂き、利用者様のお友達や親せきの面会や外出も大いに歓迎し、馴染みの関係が途絶えないようにしている。	家族と食事に出かけたり、法事の参加や墓参り等の機会がある。友人や親戚の方がホームに来られることもあり、パーマやカラーを希望される入居者には近所の美容室にお連れしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲を把握し、孤立しないように席替えをしたり、柔軟に対応している。自室で過ごされることが多い利用者には時々、訪室し、声掛けするよう心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の葬儀や初盆には必ず、お参りに行っている。亡くなられた利用者様のご家族にも行事案内を送り、行事等に参加して頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族から生活歴等を伺い、入居前の情報も地域のケアマネージャーや病院のソーシャルワーカーからも聞いている。センター方式を活用し、新たな情報も取り入れている。	入居者の思いを把握するために、「こまったことがあったら紙に書いて下さい」と記載した意見箱を、居室前の廊下に設置している。毎日日記を付ける方、書道の趣味を再開できた方、新聞や雑誌の閲覧など本人の習慣や趣味の継続を目指し、一人ひとりの暮らし方を検討し、実践している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族等から今までの生活歴や馴染みの暮らし方を詳しく聞いている。また利用者様同士の会話の中から理解を深めることもある。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のミーティングでは個別にケアカンファを行い、心身の状態、残存機能の把握に努めている。毎日の申し送りや介護経過からも現状を把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、かかりつけ医等から得た情報を基にミーティングで話し合っている。趣味や長年習慣となっていることを介護計画に反映させ、個別な介護計画作成に努めている。	個々の入居者のサービス内容はケアプランカウント表で日々チェックし、全職員が介護計画やモニタリングを共有している。気付きは介護日誌に記載し、早期に話し合い計画を見直している。趣味の習字を取り入れたケアで、本来の姿を取り戻し、元気に毎日を過ごされた入居者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別介護記録と介護日誌等で情報を共有している。ケアプランカウント表を用いて、毎日のケア内容の確認をしたり、職員や家族等から得た情報で毎月モニタリングし、介護計画を見直している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じて介護計画を見直している。問題点があれば、上司に相談して、職員全員で解決出来る様、話し合っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の神社、初詣に始まり、夏祭り、敬老会、餅つき大会等地元役員、子供会、ボランティアと一緒に楽しんでもらっている。年2回の避難訓練では地域の方々も参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を優先している。往診して頂いたり、家族と連携して受診を心掛けている。	入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。家族への暴言があった入居者の家族に、専門医の受診を勧めている。適切な医療を受けて症状が改善し、家族関係の修復につながっている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態把握に努め、少しの変化も看護師に相談し、利用者が早めに受診出来る様努めている。看護職員も介護記録や介護日誌、職員からの情報で利用者の健康管理をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来るだけ足を運び、情報収集に努めている。病院職員とは日ごろから良好な関係が築ける様、グループホームの情報も伝え、共有している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から運営推進会議や家族会で終末期のあり方について話し合っている。重度化する前に病院、家族、管理者等でよく話し合い、事業所で出来る範囲を理解してもらい、ご家族の気持ち優先で話しを勧めていくようにしている。	入居者の重度化及び終末介護に対する指針を整備し、入居契約時に説明している。重度化した場合等、状況変化の度に家族や主治医と話し合い、ホームの現状でできる支援について説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別に緊急マニュアルを作成しており、すぐに対応出来る様にしている。研修やミーティングでも初期対応の訓練を定期的に行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、運営推進会議や家族会で災害対策に備え、家族や地域の方々の協力を得て、避難訓練をしている。日中だけでなく、夜間を想定した訓練も行っている。	運営推進会議の当日に、家族や地域の方と協力しながら避難訓練を実施している。救急蘇生法やAEDの講習会に参加し、備蓄は台帳で賞味期限等を把握している。	近隣に民家が少ないことを踏まえ、夜間の避難時の協力体制を運営推進会議で提議されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同一目線・コールの駆けつけ・傾聴を目標に掲げ利用者の気持ちを大切に、穏やかな対応に心がけている。職員同士気づいた事はその場で話し合っている。	理念にある「安心して暮らせるグループホーム」を目指し、入居者の人格を尊重したケアを心がけている。趣味の書道を再開できた入居者が意欲的になっていく姿に、職員は驚きと喜びを感じている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居前に興味でされていた書道を、1年かけて勧め、ようやく書道をされるようになった。今では張り切ってされている。利用者様の出来そうな事、喜ばれる事に力を注いでいる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご本人の希望に沿うように努力している。特に食事時間、起床、就寝時間は本人のペースに合わせている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回の散髪ではカットだけでなく、パーマやカラーの希望も取り入れている。日頃は本人の希望に沿って身だしなみが出る様にし、外出時はお化粧したり、おしゃれを支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時には好みを尋ね、利用者の誕生日、旬の物や畑の野菜で食事を作っている。テーブルを拭いたり、湯呑みを下げるなど手伝ってくださっている。	季節感を大切にし、旬のものを取り入れた食事を用意して職員も入居者と一緒にテーブルを囲んでいる。退院後、食欲の無い入居者に、『食べたい物を、食べたい時に、食べれる形状で』提供し、口腔ケアを丁寧に行うことで、今では体重が増加し精神的にも落ち着いた入居者がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて、毎月メニュー表を作っている。食事量水分量は個人別に記録し、特に水分量は記入表を作り、水分摂取には気を付けている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろん、歯科医の指導により必要に応じた口腔ケアを行っている。その方に合った歯ブラシ、スポンジブラシ、舌磨き歯ブラシを使用し、力量に合わせて介助を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせて、トイレやポータブルトイレ誘導を行っている。尿意、便意の無い方も定期的に声掛けし、トイレに誘っている。	トイレでの排泄を重視し、尿意のない方にも時間毎に誘導している。排泄の自立した入居者が職員に「流したので、記録しといて」と言われることもある。車イス利用の方が夜間、ポータブルトイレを使用するため、センサーマットを設置して転倒の予防に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入し、毎日排便チェックを行い、便秘の時は出来るだけ薬に頼らず、身体を動かしたり、通じの良くなる食べ物を提供するなどして便秘解消に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午後からの入浴で、週2～3回位入れるように計画している。入浴を拒否される方には声掛けを工夫したり、担当職員を替えるなどの対応をしている。	週2～3回を目途に、9名の入居者の半数づつ、交代で入浴していただいている。最初は拒否があっても、入浴するとゆっくりと楽しまれているが、心臓疾患等の持病に配慮しながら支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、ご自分で休息のできない方は、昼食後に昼寝をしてもらっている。安心して入眠出来る様、出来るだけ昼間は活動的(運動、カラオケ等)に過ごして頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに合った服用方法で服薬して頂いている。薬が変わった時は観察を強化し、早めにかかりつけ医に相談している。内服薬一覧表も各利用者ごとにファイルしており、いつでも確認出来る様にしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力が活かせるよう出来る事(テーブル拭き、洗濯物たたみ等)お手伝いして頂いている。長年されていた趣味(習字、歌、日記等)も続けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月ごとの行事の外出(初詣、花見、地域の敬老会等)と天気の良い日はグループホーム前でお茶やおしゃべりを楽しんでいる。家族の協力も得て、お彼岸や盆などはお墓参りに行ったり、ご本人の実家に行かれている。	行事計画をたて、毎月外出している。車イス利用の入居者が多くなり、ボランティアの協力を得ながら花見や食事を楽しんでいる。外出時には、普段見ないような笑顔になったり、食欲が旺盛になるなど、驚かされることが多いと職員は話している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームからの外出の際はご自分で管理できる方は小遣い程度渡している。管理できない方は職員が付き添って、買い物をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら電話を掛けている。いつでも事業所の電話が使えるようにしている。手紙も切手の購入、投函を支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花はもちろん、利用者様の書や外出時の写真、運動会や母の日などの行事の写真を貼っている。季節感を取り入れた壁の環境整備に努めている。リビングが暗かったので、照明を増やし、新聞等が見やすいようにした。	玄関を入ると、ベンチがあり外出時の靴の着脱に配慮されている。壁に掲示された入居して最初の誕生日に撮られたドレスやタキシードに正装した入居者の満面の笑顔の写真が出迎えてくれる。リビングには、2つのテーブル、空気清浄機やソファが設置され、其々の場所でカラオケ指導の方と一緒に大きな声で歌う入居者の姿があった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関には長椅子を置き、リビングにはテーブル席以外にソファ、椅子を置いて、好きな場所で過ごして頂いている。ベランダで独りになられる方もおられる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が長年使われていた家具やベッド等持ってきて頂いている。好きだった絵や人形等思い出の品を筆筒の上に置いている方もおられる。壁に家族手作りの飾りや、家族写真も貼っている。	畳敷きと板張りの居室が設けられ、好みや身体状況で撰択されている。荷物はクローゼットにきちんと整理され、家族写真や趣味の書道作品を飾ったり、家族が居室を飾り付けるなど、入居者が落ち着いて生活できるように配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレの手すりを設置している。以前あった玄関ポーチの段差も家族からの意向で段差をなくした。各部屋には表札が置かれ、トイレや浴室も分かり易い言葉で書かれている。		